

ご挨拶

原爆投下から 72 年が経ちました。廃墟と化した広島も今では水と緑に囲まれた美しい平和な街に変わることが出来ました。しかしながら、世界の各地では、いまだに空爆による破壊やテロの恐怖におびえながら生きている人々が大勢います。私たちは、いかにしてこれらの破壊を止め、平和で安心して住める街を造ることができるのでしょうか。

ここ数年、海外から来られる観光客は、東京、京都だけでなく広島にも多数来られており、その数は急増しています。このような不安な世界であるからこそ、人々は広島に何かを期待し来られているのかもしれませんが。

昨年 5 月、現職の米国大統領として初めて広島に来られたオバマ大統領は、被爆者に寄り添い、未来に向けた力強い平和のメッセージを発信されました。オバマ大統領は、「私たちは一つの人類という家族の一員であり、広島・長崎が、核戦争の夜明けではなく、私たちの道徳的な目覚めの始まりの地として知られるような未来を選択すべきである」と宣言されました。

私たちは、世界 194 か国の国旗を一つ一つ掲げながら、言語、宗教、主義、主張の違いを超えて、「世界人類が平和でありますように」という想いだけで、その国の平和を唯ひたすら祈るというフラッグセレモニーを、毎年 8 月 6 日、原爆ドーム前で行なってきました。今年で 25 回目になります。とてもシンプルで、当たり前のことばを当たり前に唱えるだけですが、まず、お互いの国の平和を心から祈る、そこからすべてが始まるのではないのでしょうか。それがまさに広島・長崎の被爆者の強い願いでもあります。

本日は、日本のみならず、世界各地で多くの友人もインターネット中継を通してこのセレモニーに参加して下さっています。すべての皆様と心をつにし、世界平和の祈りを広島から世界に発信してまいりましょう。

2017 年 8 月 6 日

広島ワールド・ピース・プレイヤー・ソサエティ・メンバーズ
代表 富永 昌平